

－鉄研を語る－

2013年11月を節目に、事実上の引退となる現・高校2年生。残り少ない部活動を控え、活動内容もいよいよ大詰めになってきた。最後の「停車場」として、何か記念になるものはないだろうか。

そこで高2有志たちが、8月30日午前9時、O森駅付近のファミリーレストラン：ガ●トに集まって座談会を行なった。自分たちが入部した当初の鉄研の雰囲気や、数多く行った鉄研旅行を振り返り、楽しくお話をしてくれたゾ！

座談会は以下のメンバーで構成されている。

- ・眞壁 一志 …部長。最も長く鉄研活動に従事している。鉄研旅行には皆勤賞を記録した。
- ・池田 怜史 …副部長 兼 HP班班長。入部当初の鉄研の雰囲気を知る人物のひとり。
- ・佐藤 強志 …技術班班長。模型班・技術班の中ではとりあえず統括役。実は(ry
- ・角田 圭多朗…HP班副班長 兼 催事担当。後輩たちの面倒見事が多い。
- ・内田 翔 …名ばかりの書記。というか雑用。今回の座談会の主催者であり執筆者。

内田「おはよう。」

池田「朝ごはん食べて元気モーリモリッ！」

角田「ドリンクバーとか頼まないの？」

内田「ドリンクバーあるよ、プレミアムカフェドリンクバー（苦笑）」

眞壁「とりあえずそれで良くな？」

佐藤「てかこれ10:30まで粘ったら普通のメシ食えるじゃん」

池田「別にモーニングセットでもいいんじゃない？」

角田「まあ、みんなが食べれるものって言ったらポテトフライとか？」

内田「うん、とりあえずポテトフライおつまみ的な感じでw まずドリンクバー6人分頼もう。」

佐藤「6人…6人分!？」

池田「ここに透明人間がいるw」

角田「眞壁の荷物って飲み物飲むの？」

眞壁「中の荷物ぐっちゃりしそう。」

《まずはドリンクバーを注文 数名は先にバーへ》

角田「今年は内田挫折しないよね？停車場…。挫折されたら今日集まった意味ないよw」

池田「そもそも何で座談会を停車場に乗っけるのか」

角田「鉄研の雰囲気でしょ。だってああいう真面目な記事の中にこんなのあったら面白いし。」

池田「なるほど。」

角田「ちゃんとまとまると良いけどな…」

◆2010年12月冬旅行を語る

池田「やっぱりまずは鉄研旅行の話だな。」

佐藤「京都大阪で観光して急行きたぐに乗るやつ。」

内田「そんなのあったっけ??」

佐藤「きたぐに乗ったじゃん!お前いたぞ? 俺の写真に写ってたし」

内田「あ…あああ、…ああ。」

佐藤「てか前半はボックスシートに無理やり座って寝てた記憶しかないんだけどw」

内田「ああ、4人のボックス席に6人座ったヤツ」

佐藤「そうそう、俺が無理やりつめて座った、眠いからw」

池田「佐藤の旅行案だな。」

角田「思い出させないで(半泣き)」

佐藤「そうだ、キャベツだ、キャベツ! キャベツ事件!」

角田「俺らさ、串かつ買ったら、ちょっとの量買ったのにキャベツがこーんなについてきて。」

池田「キャベツ事件。あったねえ…」

角田「うん…で、みんなで大阪駅でキャベツ食べたんだよ。」

佐藤「そうだよ、駅のコンコース行ったらこいつら片隅でキャベツひたすら食ってんのw」

内田「あれキャベツ1玉ぐらいあったよね。何で1玉レベルで渡すかなあ?」

角田「ホント。果てにはコンコースにソースこぼすし。」

池田「イモムシにあげれば良かったのにw あれでイモムシ20匹くらい飼えるぞ。」

眞壁「そういうの行けば良かったわ…自分たちは大阪で4時間時間潰したときの旅行だよな?」

内田「大阪の待合室事件か!」

眞壁「大阪の待合室で4時間駄弁って終了したんだっ…」

佐藤「お前ら何やってんだよw」

◆2011年3月春旅行を語る

…現高校3年の山田さんが発案。3月11日に発生した東日本大震災により中止となった。

この案の改良版が、2012年3月の春旅行になっている。

佐藤「これ中止になったやつ…」

池田「終わり。」

佐藤「12年の春が『北まで届け、未訪の春 Second』になった」

眞壁「うん。」

◆2011年12月冬旅行を語る

…現高校2年の新川君が発案。初日は朝10時に東京集合で、いすみ鉄道を大多喜～大原1往復貸切。

その後東京へ戻って夜行列車が来るまで自由行動を取り、日を跨いで北上。

北陸で解散し、最後に東京へと帰る夜行列車の車内で集合を取った。

内田「朝スタートでした。」

佐藤「はい。」

内田「…みんな“はい”じゃなくて何か言ってよ」

池田「まず、総武快速乗るでしょ、千葉でめっちゃ乗り換え時間が短くて焦った。」

角田「そうそう、あの全力疾走したヤツ。他の客に舌打ちされた。」

眞壁「あれ接続してなかったんでしょ？」

池田「してなかった。」

眞壁「車内のアナウンスが一本先だったからw」

角田「何やってんだアレ…」

佐藤「あの行程さ、やたら時間が余ってるのと時間が厳しいのと両方あったよね」

内田「そうそう」

佐藤「なんか乗り換え短いくせに都心で自由行動とか何すりゃいいのっていうw」

角田「うん、内田と一緒に秋葉のビックカメラだかに行かなかったっけ？」

内田「俺はあそこで一回家に帰ったよ？」

池田「内田じゃなくて、梶原と3人で行ったはず。」

佐藤「だからあの旅行案やめて他3名連れて個人旅行にした。」

眞壁「日帰り×2みたいな旅行だった。」

角田「あの時といえばやっぱり貸し切り列車は大きかったよ…」

眞壁「でも大多喜～大原2往復するだけだったじゃん。」

佐藤「まああれは仕方なくね？いすみ鉄道の貸し切りつつたらその区間しかないもん。」

内田「そこらへんはイイよ、んでムーンライトで北上。」

池田「おう」

内田「サンダーバード乗車勢とワイドビュー乗車勢に分かれた。京都で観光。最後の帰り道で事件。」

池田「あったねえそんなの（遠目）俺がやらかした」（※）

眞壁「アーッ」

内田「この話止め。次行こう次」

※：最後のムーンライトながらで帰京中、池田が車内のトイレに××××を落としてしまった事件。

◆我孫子の唐揚げそばを語る

…知る人ぞ知る、JR 我孫子駅ホームに位置する某そば屋さんの人気メニュー、唐揚げそば。

ジューシーな鶏肉と濃厚な衣を使った、巨大な唐揚げがドンと乗っていることで有名。

2013年8月末にHP班が開催した日帰り遠征では多くの部員が食べたという。

ちなみに筆者は一度も食べたことがないので…。

角田「さて…何話す？」

内田「何話す？」

佐藤「昼のメニュー見よ」

眞壁「10時30分ピッタリに注文すればいいじゃん。」

佐藤「もう決まったわ、ピンポン」

池田「行きますよーいくいく！」

角田「どんな厄介客だよ…」

佐藤「お前そんなこと言っているとキッズメニュー食わせるぞ？w」

角田「何だよッ！ そこまで小食じゃないから…」

佐藤「あ、小食って言う意味で？」

池田「唐揚げそば。 唐揚げ2個入り。」

内田「我孫子のアレかぁ」

角田「あー俺ら食べたよ、唐揚げ2個入りのそば。」

眞壁「マジでw」

佐藤「でもアレ2個入りって結構な量じゃないの、1個で十分って話をよく聞くんだけどさ」

内田「1個がこ～んくらいあるんでしょ？」

池田「唐揚げと言うよりケン●ツキーフライドチキン並の大きさを誇る。2個入りはそばが見えない。」

眞壁「玉眞（中2部員）から写真つきでメール来たんだけど」

角田「噛み切れないんだよ、アガアッアッハアッって感じになるから…」

池田「そこはがんばる。鶏肉の繊維にそって食べるんだよ。」

眞壁「ちょっと口がイケナイ感じになるし。」

◆2012年3月春旅行を語る

…現高3の山田さんが発案。前述の通り2011年3月の旅行案を改良した1泊5日の旅行。

新宿に夜集合し、夜行列車と普通列車で秋田方面へと北上。秋田から青森までは自由行動(多くの部員がリゾートしらかみに乗車)とし、青森から札幌まで急行はまなすに乗車。さらに札幌～旭川を終日自由行動とし、旭川のホテルに宿泊。翌日は苫小牧などを經由して新日本海フェリーでまた一泊。最終日は新潟から東京へ一気に南下する。が、南下中に発達した低気圧の影響を受け…。

内田「よしじゃあ俺たちが中三から高1に上がるときの春旅行」

佐藤「欸-!!」

角田「うるせえw」

内田「リゾートしらかみが運休になっちゃって」

佐藤「ああ、で結局なんか車両はあったけど…で結局走ったよね」

眞壁「うん、でボックス席で…黄色いものをドバツと…」(※1)

池田「で俺らは放っておいて出ちゃった。あれは申し訳なかった、車掌に一言言えば…」

角田「お前ら何やってたんだ…」

池田「あとはタブレットでアニメ見てた人とか。俺も便乗した。」

眞壁「マジで？」

池田「それから急行はまなすの車内で充電してたら、知らない人に文句言われた。」

佐藤「あー聞いた聞いた。」

眞壁「はまなすとかさあ、函館までデッキにいたし…」

佐藤「そうだったね。で0時になったらみんなミスド持って高校一年オメデトーなんて」

内田「俺その後疲れて寝ちゃったよ。」

佐藤「戻ったらコイツ(池田)が既に口開けてガーッって感じで寝てた。」

内田「青森の味噌カレー牛乳ラーメンはインパクト抜群だったな。」

眞壁「いや、あれのふりかけが地雷過ぎて…」

店員「こちらマルゲリータピザになりませう。」

池田「よし切ろう」

角田「5等分だからどうやって切るの？」

《またしても話が逸れ、ピザの話で盛り上がったのでこちらへんカット》

内田「帰り道で、台風が来て 低気圧が来て 帰れなくなりそうだった(棒読み)」(※2)

佐藤「台風はしょうがねえよな。」

※1：部員の持っていたミスタードーナツに付着していた砂糖がこぼれ、座席下へ沈積。

※2：列車の多くが運休し、一時は帰れなくなりそうだったが、接続もあり1時間遅れで帰京。

◆2012年12月冬旅行を語る

…現中3の西山君が発案。初日は朝7時に上野駅に集合し、DLクリスマス碓氷や足利イルミネーションに乗車して茨城県・栃木県などを巡る。夜に大宮へ戻ったのち、ムーンライトえちごで新潟へ移動。快速「きらきらうえつ」で酒田へ移動し、半日の自由行動をとり、夜に再び新潟で集合、東京へ。

池田「で、どれ食べる？ 俺が一番小さいのを…」

佐藤「ああ結構謙虚にいくんだね。」

内田「オイ、ちょっとサ、早くサ、お話してくれ(懇願)」

池田「お話ししようよ☆」

佐藤「てか誰いく？この2分の1π(パイ)(※1)」

角田「誰か食べれば？」

佐藤「俺いく予定だけどw」

池田「じゃあヨロシク。俺はタバスコ入れてみる。」

眞壁「マジで入れるの？」

池田「タバスコってさあ、キチ●イがかけるものだよな。」

内田「——はい？ てかピザ旨い。」

《なぜかみんなピザに夢中。話が脱線しすぎている件。》

内田「で、去年の冬旅行。DLクリスマス碓氷。中一の大量離脱。」

池田「何だったんだアレ」

角田「スキー教室と日付が被るからだよ。」

佐藤「ああそういうことか。俺は最終日の新潟集合だけ行っただぜ。」

内田「ラストの強志登場か。」

佐藤「ガスト？」

角田「ラストww」

眞壁「てか新潟でいろいろあった。」

角田「新潟にタソ(※2)がいた。あの人フリー券持ってて、ニッシー(※3)に腹パンチ食らってたw」

内田「俺らはあれか、足尾銅山やらあつみ温泉やらに行っただな。」

池田「マジか。」

内田「うん、夜ごはんは『イタリアン』(※4)を食べてニッシーが胃もたれ引き起こしたw」

眞壁「あw」

※1：円形のピザを弧度法(ラジアン)を用いて切り分けていた。

※2：タソ…現高3、旅行班所属の柴田さんの愛称。

※3：ニッシー…顧問の西島先生の愛称。

※4：新潟名物B級グルメ。焼きそば麺にトマトソースをかけた風変わりなジャンクフード。

to be continued…

高2有志による～鉄研を語る～ Chapter.7

《ここで、自分たちが入部したとき（当時中学一年）の話で盛り上がった》

角田「俺が入部したのは中一の1月だもん。初めて参加した部会が冬旅行の反省会w」

内田「てか 超・元祖 鉄研部員 ってさ、俺・腰川・秋元（高2部員）・眞壁じゃねっていう…」

池田「あれ、俺も一番最初から入ってたよ。」

佐藤「トントントントント（無言の圧力）」

眞壁「あれ池田と強志、最初の部会いなかったでしょ。」

佐藤「い ま し た よ ！ 」

眞壁「いた！？」

内田「何かサ、西島先生に連れられて百周年記念館に見学に行ったのが最初。」

眞壁「百周年行って、…《検閲により削除》が騒いでたのが最初じゃない？」

池田「あーそうだったっけ」

佐藤「高輪入るじゃん、中間テスト終わるじゃん、真っ先に鉄研の入部届け出したの俺なんだけどw」

内田「俺はね、西島先生と仲良くなっ t …………… なっ …… た …… 。」

眞壁「中一の時とか先輩としか話さなかったし。」

角田「俺その頃は自動車研究部入ってたわ。」

池田「俺一番最初 HP 選んだ。だからお前らと関わりがなかったんだと思う…。」

眞壁「部会で会ってるじゃん。」

佐藤「いやいや最初はなんか二手に分かれてやってたじゃん。俺と池田とS川あたりが一緒だったよ。」

眞壁「BVE とかやらされた記憶がある。」

佐藤「交互にやってたじゃん。だから最初の方は俺どちらかという HP 班の面々と仲良かった。」

内田「一回ごとに HP と模型を行き来してたんだっか。」

佐藤「んーだからこっち(模型班)の人はよく知らなくてお前ら乗り過ごしてやんの? ギャーみたいな」

眞壁「夏休み中の活動とか誰も来なかったよね? 森（高2部員）がいたか。」

池田「HP 側は俺と新川の2人しかいなかったし。」

眞壁「毎日毎日今井さん（高3元部員）に『今日やることありますか☆』って聞いて真面目ぶってたw」

角田「おいw」

佐藤「結局俺たちが集まったのって文化祭前くらいじゃない？」

眞壁「強志は中一のころ模型班来てるイメージなかった。」

佐藤「うん、俺全然来てなかった。でも最初からいた。」

内田「いたけどね。」

佐藤「実際今でこそ《検閲により削除》けど、アイツ（高2部員の洞口）と関わったのは文化祭前。」

池田「誰か紙持ってないか、人物相関図書こうぜ。」

内田「どこのアニメだよw」

角田「中一の時のC組って異様に鉄研多かった気がする。」

眞壁「ABDE が 2 人ずつなのに C 組だけ 7 人もいたっていうw」

to be continued…

◆2013年3月春旅行を語る

…2012年冬旅行案と同じく西山君が発案。初日は東京駅に夜集合し、ムーンライトながらで西日本へ。2日目午後から名門大洋フェリーで北九州へ向かいながら一夜を明かす。翌日は小倉～宮崎を一日自由行動、宮崎駅周辺の東横インに宿泊後再び宮崎～小倉を一日自由行動。帰りも同じように、今度は阪九フェリーで西日本へ戻り、東海道本線を伝って最後に小田急VSEへ乗車して新宿へ…。

角田「2日目の自由行動中、予定の普通列車に乗り遅れたから、京阪特急で追いかけて。」

池田「そうそう。」

角田「追いついたら『ヤッター時間あるからミスド食おう！』って言ってミスド寄ったでしょw」

眞壁「そして寄ったら時間がアレになって。」

池田「やっちゃった。」

角田「集合時間何分？15時だよ。今何分？1…14時58分ッ？ってのんきに食ってたらしい。」

池田「あああ！やっぱ俺は最後まで馬鹿だった。」

佐藤「てか俺たち行ったら全然集まっていなかったよね。ここでいいんだよね？っていうくらい」

眞壁「こっちもかなり遅れそうだったし。」

内田「そう、集合場所で松崎さん(※1)の妙な口調の点呼。『ワガ…。 ｲｲ…。』って」

佐藤「あったあったw そう妙な呼び方。」

内田「てかね、あの旅行みんな病気だったんだよ…。 行きのフェリーとかさw」

佐藤「ホントなんだったのあのサバイバルゲームw 船室内がもはやバイオテロ(※2)。」

眞壁「高1(現高2)の8人部屋だけドヨンとしてたし…」

角田「てか名門大洋フェリーって結構昔に食中毒事件あったから、それじゃないかって話しが。」

池田「ああ、そんな話もあったな。」

角田「血を吐いた人とか倒れた人とかいたし…」

佐藤「確かになんかねえ…うん…あのメシはちょっと」

池田「俺は、自販機で売ってた焼きおにぎり食って逃げたから勝ち組だわw」

佐藤「あれはもうニチレイだかの自販機のホットフード食った方が良かっただろ。」

角田「てかどこだっけ、バイクで変な飲み物持ってきて眞壁に毒味させたの。」

眞壁「なんだっけ？」

内田「それ、俺が口つけたから俺が全部飲まなくちゃいけないみたいなやつでしょ。俺の病原菌。」

眞壁「そう、ドリンクバー的なところに変な炭酸があつて。」

佐藤「お前(内田)が持ってきて、飲んだら撃沈してたじゃんw」

眞壁「炭酸だから飲めないとかさw しかも口つけたから病原菌入っちゃったし。」

池田「そうだよ。内田はね、全然炭酸飲めない人だから」

角田「立石のお祭り(※3)に来た時も『飲んでやる』とか言ってラムネ買ったけどダメだったよね。」

内田「あれは2時間かけてなんとか1本飲み干した。」

内田「旅行の帰りのフェリーが、みんなコンセント乞食してて発火寸前。」

眞壁「タコ足厄介w」

佐藤「あったね。写真あるよ。」

池田「で俺が安全なコンセント配置を考えて…。 角田は別の部屋に行ってたか。」

角田「うん…あいつら（後輩多数）鎮圧するのに精一杯だった…。」

佐藤「写真たしか…って何か変な写真出てきたw 前回のカラオケw」

角田「な、何それ？」

佐藤「なんかうちちゃんがサングラスかけて何かと思ったらコンなことやったり…」

内田「やってたね。今回もやるか。」

池田「X JAP●N ですか。」

眞壁「てか強志のコラ画像が LINE に出回ってたんだけどw」

佐藤「しょうがないじゃん、部室で《検閲により削除》とかやってるんだから…」

角田「おいw」

佐藤「で、あったあった、これでしょ？春のコンセント写真。」

内田「それぞれ。」

佐藤「一年前の春旅行だってコンセント割とヤバかったじゃん。」

池田「苫小牧のフェリーだね。」

角田「もう、みんなが楽しくコンセン…」

内田「ぶうああーっくしょーい！！」 ※くしゃみ音により角田の発言が一部判読不能

角田「俺とか下級生を三分割して、風呂とメシと…」

内田「よし、会計してきます。」

眞壁「早くね？」

内田「座談会終わり、ありがとうございました！」

角田「ちょ、俺と岸（中3部員）で下級生鎮圧した努力はどうなったw」

池田「まあその辺もいれようか、記事に」

内田「お勘定お願いしまーす」

店員「かしこまりましたー、Tポイントカードお持ちですか」

眞壁「物（ここぞとばかりにカードを出す）」

角田「素早く出すなw」

店員「ありがとうございましたー」

※1：顧問の松崎先生。

※2：体調の悪い部員（各々の原因は不明、いずれも風邪のような症状）が数名いたため。

※3：角田の地元、立石で開かれたお祭り。数名が招待された。

to be continued…

◆編集後記 座談会を終えて・・・

【(執筆) 内田の場合】

実はこういった座談会を停車場に載せるって言うのは以前にも数回あったんですよね。今までの「停車場」を振り返ってみると、こういった“お話”が記事として載るといのはなかなか異質な存在であったと思います。部員たちの記事ごとの間に挟むコラムのような形式になると聞いて、1 ページ内に談話内容を詰め込むのも苦労しました。

実は、この停車場の記事の提出期限が9月6日だったんです。そして、前述の通り座談会開催日が8月30日。実に原稿を書くことのできる期間が一週間しかなかったんです。また、座談会の内容自体も、書き始める前はかなり不安がありました。2 時間分の録音ファイルを文章化する上で、停車場に載せられるような事ほとんど話していなかったんだもん！

このように、なかなか無理のあった企画だったと反省しつつも、一つの記事として形にできたことは嬉しく思います。高輪の鉄研という誇りが、いつまでも続きますように――。

【佐藤の場合】

どうも、ご紹介にあずかりました技術班長の佐藤です。ここまで長文・駄文にお付き合いいただき、お疲れ様でした。(おい

さて、引退を目前に控えて今までの鉄研での活動を振り返ってみて、とても早くもつとやれることがあったのではないかと、というのが率直な感想です。特に今の職に就いてからは、達成感よりも後悔というかやり残し感の方が大きかったです。

でもこの鉄研は(色々な意味で)とても楽しい部活でした。(色々な意味で) 愉快的な雰囲気、毎週鉄研の活動が(色々な意味で) 待ち遠しくてそわそわしていました。しかしそれもあとわずかです。後輩たちには“楽しい部活”を受け継いでほしいものです。

最後に。我孫子の唐揚げそばはホント美味しいよ。

【角田の場合】

本日は旅行・鉄道研究部の出展にお越しいただき、また最後まで僕たちのトークにお付き合いいただきありがとうございます。このように、旅行・鉄道研究部には愉快的な仲間たちがいます。みんなで雑談して、旅行して、そして力を合わせて文化祭を頑張って・・・・。本当に楽しい部活です。

中学受験でどこの学校を受けようか迷ってる小学生、学生ライフを楽しみたいならこの学校を選ぶしかないですよ！ 俺たち高輪生と一緒に青春しないか？

アアアッ、最後までではちゃめちな記事でしたね。

それでは、当座談会はこれにて終了とします。

この度は高学祭へのご来場、並びに旅行・鉄道研究部部誌

「停車場」を手にとり下さりありがとうございました。

来年の高輪学園文化祭高学祭、そして旅行・鉄道研究部を今後ともよろしく願います！

【眞壁の場合】

<部員 M の成長記録④>

[高校1年生：2012年4月→2012年10月]

この年の夏に行われた鉄道模型コンテストでは、それまでの努力が実り11位/95校という、我ながら素晴らしい成績を収めた。作品の8割は自分が完成させたエリアだったためその結果は今でも自分の支えになっている。そして部長就任へ…

[高校2年生：2012年11月→2013年10月]

部長になって実感したこと…それは最高の位に立ち、およそ60人も部員を牽引する大変さだ。作業が得意な人も居ればそうでない人もいる、人に指示を出すのが得意な人がいればそうでない人もいる…部長という立場から部員たちに見合った仕事を与え、部の向上につなげるという、簡単そうに見えて実は非常に難しい作業をこなしていく中で、私は色々なものを犠牲にし、逆に得たりもしてきた。様々な人たちとの関わりは将来の自分にとって良い経験になるに違いない。

私の記事の冒頭、「鉄研に入って何か成長できたのだろうか？」という疑問の答えは結局まだ見つかっていない。部を引退し、高校を卒業し、大学に入り、社会人になる…その過程で鉄研での苦悩や経験を活かした時に初めて、鉄研に入って成長できたと胸を張って言うことができるだろう。今後もこの部活の発展を陰ながら応援していきたい。

【池田の場合】

ついこの前高輪に入学して鉄研に入部したと思ったら、もう最高学年。

私が入部して一番最初の鉄研の高学祭(2009年)での出展名は「テッケン・オブ・タカナワ」なるものでした。この題名には元ネタがあることはさておき、かつて私の先輩方は「高輪の鉄研」から「鉄研の高輪」になるくらい、この高輪の鉄研を有名にしたいという思いをこめてこの題名をつけたそうです。

あれから4年経った今、その鉄研はどういう部になっているのでしょうか。…そう、部員たちは切磋琢磨しあい、去年(2012年)の高学祭ではついに大賞をとるまでになったのです。また、最近「高輪の鉄研に入るためにこの学校に入った」と語る新入部員が多く見受けられ、今まで鉄研の礎を築いてきた先輩方の願いは成就しつつあるのかもしれない。

最後に私も、副部長として、こうして停車場を編集する作業に従事できたこと、そして何よりこの高輪の鉄研に居たことを誇りに思います。

共に記事を編纂してくださった方、そして、共にこの高輪の鉄研の歴史を築いてきた仲間へありがとう。

～最後まで停車場をお読みくださり、ありがとうございました～

Fin